

令和4年

新城市教育委員会

10月定例会会議録

新城市教育委員会

令和4年10月新城市教育委員会定例会会議録

1 日 時 10月20日(木) 午後2時30分から午後3時47分まで

2 場 所 新城市役所本庁舎4階 会議室4-2、4-3

3 出席委員

安形 博教育長 青山芳子教育長職務代理者 安形茂樹委員 夏目みゆき委員
原田真弓委員 夏目安勝委員 鈴木志保委員

4 説明のため出席した職員

鈴木教育部長
原田教育総務課長
中嶋学校教育課長
村田生涯共育課長
滝川生涯共育課参事
中村生涯共育課参事
湯浅生涯共育課参事
請井生涯共育課参事

5 書 記

下山教育総務課庶務係長

6 議事日程

開 会

日程第1

- (1) 教育長報告について
- (2) 行事・出来事(10月、11月)について

日程第2

- (1) 協議事項
ア 人事異動方針について(学校教育課)

日程第3

- (1) その他
ア 冬の特別展について(生涯共育課【鳳来寺自然科学博物館】)

閉会

○職務代理者

では、始めさせていただきます。
議事日程に沿って進めていきます。

日程第1 教育長報告について

○職務代理者

日程の第1、教育長報告について、お願いいたします。

○教育長

よろしく申し上げます。

今日は、学校教育関連について報告をいたします。本日、今ちょうど八名中学校と作手中学校で研究発表会を行っております。八名中学校に76名の教師、そして作手中学校に44名の教師が集まってそれぞれ授業研鑽をしているということで、お互いの効果が得られると考えています。何よりコロナ禍ではありますが、実際に授業を見て教師同士が刺激し合えるそういう時間を共有できていることをありがたく思っております。

今日、1枚資料を用意させていただきました。授業力向上プロジェクト「みがく」というタイトルのものをご覧ください。これは、昨年度まで学校訪問ということで名づけられているものです。学校訪問というと教師がどうしても受け身的なイメージを持つ。学校訪問するのは教育委員会であって、教師からすると訪問されて教育委員会の話を聞く、でも本当はそうではなくて、学校訪問は教師の授業力を磨く場であらなければならない、そのように常々考えていました。今、この立場になって、「みがく」という名称に変えさせていただきました。教育委員の皆様には、多数ご参加いただき本当に感謝申し上げます。ただ、これは今年始まったばかりですので、これからいい点、悪い点含めてあると思いますので、それをできるだけいい方向に伸ばしていきたいと考えています。

今日は、10月3日に行われた東陽小学校での「みがく」をお伝えします。単元名が6年社会、ノルマン君に誓うという社会の授業です。今、日本全国で主体的対話的で深い学びというものを目指しているのですが、もしどういった授業がそういう授業かといったら、子供の実態とか、教科の特性とか授業の目標があるので一概には言えないのですが、廊下に居ながらにして子供の声がきちんと聞こえてくる、そういう授業が一つの主体的対話的で深い学びの表れかなというように思っています。子供が言いたくてたまらないという状況になって、子供が授業の中でどんどん、どんどん自分の存在感を示していく、そういう授業を目指すべきかなというように思っています。この6年生の授業、担当が請井教諭ですけれども、この授業がすばらしかったのでその報告をさせていただきます。

まず、このタイトルですね、ノルマン君に誓う、これは東陽小学校に戦前、当時は能登瀬小学校だと思いますが、青い目の人形がアメリカとの親善関係の証として送られてきた、それを東陽小学校が引き継いで、そして東陽小学校にずっとあるものですが、子供にとっても校長室にある身近なもの、そこを皮切りにして戦争あるいは、第二次世界大戦、そのときの日本ということで学びを深めていくという授業構想になっておりました。

私が教室に入って30分間ぐらい、教師は何も話しませんでした。子供の意見、子供の考えで全て意見発表で授業が進められていました。それも子供と子供が本当によく関わり合っていました。前に言った子の意見をきちんと受け止めて、でも、こういう考えもある、あるいはそれを受け止めてちよっ

と考えが変わった、そういう意見でした。

元をたどると、4番のところに書いてあるんですけど、一つは追究がすばらしい。びっくりしたのは、子供が言いたくてたまらないことを自分で資料をタブレットに落として、それをミラーリングして、大画面で提供する。以前、新城小学校が昭和の終わり頃に愛知県の教職員を集めたようなすばらしい授業をされていましたが、その授業に匹敵するような本当に子供の考えで成り立っている授業でした。追究がしっかりした、それを元にした意見があったということ、そんなことを感じました。

授業の時間数は紙上には、6分の5、つまり6時間完了の単元の5時間目だと書いてあったのですが、子供によっては多分、60時間ぐらいこの単元で時間を費やしているのではないかなと思います。その一人、この中の一人が生田さんという子で、たまたま8月に行われた「聞いてください私の話」に出ておりました。ウクライナの話をしました。また、別紙はその子の原稿がありますのでお読みください。

もう、夏休みから戦争のことを考えていたんですね。そういう子供の実態があって、それを引き出して、授業づくりをされているということを感じました。

今、教師の働き方改革が取りざたされていますが、その前になければならないのは子供の学び方改革、与えられた課題を精一杯やるという学びではなく、子供が自律的に学びを深めていく。高学年ぐらいになってくると、そういうスタイルが当然ようになってきて、中学校になってくるともう先々のことも考えて、自分で考えてやっていける子に育てなければいけないというように思っています。日本が多分、一番取り残されている国だと思っています。そういった面ですべての教師の参考になる授業だと思います。

ただ、タブレットと括弧書きしてあるのですけれども、3年前からタブレットが入って、タブレットに侵されているというか、タブレットがあるからタブレットを使っています。そういう形に陥りやすいのですが、本当ならば、自分が調べたいことがあるからタブレットを使うし、自分が言いたいことがあるからタブレットを使うということだと思います。10年たてば、ノータブレット、ノーラーニング、タブレットがなければ学びではないというようなことになってくると思います。子供たちが就職する頃に多分、そういう時代になっているし、もうそれは既に始まっています。ですので、タブレットに慣れるということは大事だけれどもということで、もう二つの括弧書きをしました。鉛筆とノート、白い紙に黒い鉛筆で書いていく、そういうことがやはり情報過多のこの時代の中で子供たちがゼロからつくり出していく想像力をつける。あと本と書きましたけど、これはとても大事。タブレットがあるだけにこういう紙媒体、とても大事だと思っています。何より感じる力、そして世界観を広げる力、それが根っこをつくるということを感じました。

裏面に移ります。その授業があまりすばらしかったので、どうしても汎用性ということを考えるのです。その人だからできるのではなくて、やはりその人に学ぶという機会をきちんと設ける。翌日、東陽小学校の校長先生と担任の了解を取って、授業の公開が1月に決まりました。1月に2回、請井先生の授業を公開していただく、そこにはここに書いてあるような、初任者、少経験者、あるいは高学年担当、中学校の社会科教師、主体的対話的で深い学びの追究者ということで、コロナのときでもあるので、上限2名という限定付きではありますが、いい授業を見て、学ぶという機会を大事にしていきたいと思っております。

たまたま、東井先生、教育界では大変有名な実践者・東井先生の「最後の授業論」の中で燃え上が

りということばがあります。そういう燃え上がりがある授業に久しぶりにあったなというようなことを思っています。

今日、たまたま午前中、市政経営会議でその話をしたら、市役所に二次中継というか、東陽小学校の学級で行われている授業を政策会議室でも見られるように、という提案もありましたので、これから検討していきたいと思います。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

ただいまの教育長報告につきまして、ご質問等ございましたらお願いします。

すみません、実は私も東陽小学校に訪問させていただいたのですが、非常に環境のいいところで伸び伸びと子供たちが勉強しているというのがとても印象に残りました。そして、廊下に子供たちが何か餌付けをしているというか、よく見ましたらモリアオガエルがいて、生まれて初めてモリアオガエルを見ました。じっと見ましたら結構大きなキッキー君、キッキーちゃん、モリアオガエルがいて、目が合ったんです。生まれて初めてカエルがかわいいと思った瞬間で、そのとき先生の説明によると、子供たちがいつも餌をあげているので、懐いていると言いましたので、カエルもそうやってかわいがってあげると、優しい表情になりますし、人に懐くようなそぶりをするのかなど、ちょっと感動的な一瞬でした。東陽小学校での出来事でした。

では、次に移ります。

では、日程第1の(2)行事・出来事10月、11月について、お願いします。

○教育総務課長

それでは、教育総務課から説明させていただきます。資料1ページをご覧ください。

10月1日ですが、市政功労者表彰式新城市教育委員会表彰式を開催しました。委員の皆様にはご出席いただきありがとうございました。

10月20日、本日ですが定例教育委員会会議を開催しております。

また、本日から11月11日まで地域自治区を単位とした10か所の会場で地域意見交換会が開催されます。

11月に入りまして、11月9日、第3回教育長会議、11月10日、総合教育会議とありますが、資料の訂正をお願いします。11月10日ではなくて、11月25日に総合教育会議の開催を予定しております。

それから、11月17日、定例教育委員会会議の開催を予定しております。

教育総務課からは以上です。

○学校教育課長

続いて、学校教育課お願いいたします。

10月8日の日に行われた中学校駅伝大会であります。男女とも、鳳来中学校が大会新記録で優勝いたしました。その駅伝大会ですが、今週末土曜日、10月22日に総合公園で東三大会が予定されています。勝ち抜くと11月12日、これは豊田市で開催予定ですが、県の中学校駅伝大会というように駅伝大会がつながっていきます。

10月末、10月28日、庭野小学校の修学旅行が予定されておりますが、この庭野小学校の修学旅行をもって今年度の小中学校全ての修学旅行が終了いたします。

10月末から11月にかけて、文化祭、学習発表会があります。明日ですが東郷中学校で文化祭が行われます。

10月29日と11月5日、ここで中学校の文化祭が計画をされています。

小学校は11月2日、新城小学校がスタートで、ほぼ11月に計画がされております。ここに入っていない2校あるんですが、2校は2月に学習発表会をする予定であります。この10月11月は、そんな形で旅行、それから運動、それから文化祭、学習発表会と文化的な行事が予定されております。

以上です。

○生涯共育課（共育・文化係）

続きまして、資料の3ページをご覧ください。

生涯共育課共育・文化係の10月、11月の行事です。

10月30日、11月3日にリフレッシュセンターで作手の森の音楽会を3年ぶりに開催します。

11月6日には、第47回新城音楽祭を大ホールで開催します。

19日には、第33回、新城歌舞伎を3年ぶりに大ホール開催いたします。こちらのチラシの配布をさせていただきますのでご覧ください。子供たちが「弁天娘女男白波 稲瀬川勢揃いの場」を演じます。

また、同日開催として、松竹特別巡業「中村獅童のHOW TO かぶき」あらしのよるにを1人語り公演します。中村獅童さんが新城の地歌舞伎に大変興味を持ってくださり、第1部のHOW TO かぶきで新城歌舞伎のメンバーとの共演が実現することになりました。歌舞伎ならではの表現方法や化粧の仕方などを説明していただきます。

第2部では、絵本「あらしのよるに」を獅童さんが朗読します。

共育・文化係については以上です。

○生涯共育課（新城図書館）

続きまして4ページをご覧ください。

図書館から10月、11月の行事・出来事について報告をいたします。

まず、10月ですが、5日、豊根小学校の1、2年生9名が図書館見学に来ていただきました。

12日には、新城小学校3年生46名が図書館見学と本の貸出し体験で来館をいたしました。新城小学校につきましては、今年度ライブラリースタート事業の対象校でありまして、学校の図書委員の児童が選書した本を図書館で購入いたしました。児童の皆さんは、それぞれお気に入りの本を1冊ずつ借りていきました。今後、新城小学校で選書した本につきましては、特集コーナーで展示の予定をしております。

明日21から3日間、雑誌のリサイクル会を開催いたします。今年度は777冊の雑誌を3日間に分けて提供します。

そのほか、インターンシップとして有教館高校の生徒さんを受け入れております。

27日から11月9日までは、第76回読書週間となりますので、この期間は特別貸し出しを行います。

次に、11月ですが、先ほど申しあげました9日まで読書週間として特別貸し出しを行います。

また、引き続きインターンシップとして有教館高校の3年生を受け入れております。

先ほど共育・文化で説明の中にありました11月9日の新城歌舞伎と中村獅童さんの歌舞伎とあらしのよるにの1人語りですけれども、図書館におきましても歌舞伎の関連本とあらしのよるにの関連本

を、特集コーナーで展示しております。あわせて中村獅童さんの動画もカウンターの横で見ただけのようタブレットを設置しています。

図書館からは以上です。

○生涯共育課参事（スポーツ係）

5ページをご覧ください。

10月4日ですが、市スポーツ推進委員の定例会を行いました。

10月10日には、第6回こどもスポレククラブを開催しております。

11月に入りまして、11月5日土曜日ですが、第7回のこどもスポレククラブを行います。

11月9日には、B&G全国教育長会議ということで、教育長に出席していただきます。

11月24日ですが、第4回スポーツ推進委員総務委員会を開催する予定です。

記載はありませんが、11月26日にフェニックスの新城市 d a y ということで、市民の方を500名招待いただけるプログラムがあります。そちらのPRということでバスケットボール交流会ということで、本日ですけれども午前中に東郷東小学校、東郷西小学校の子にバスケットボール交流会として、バスケットボールをやっております。

スポーツ係からは以上です。

○生涯共育課（文化財・資料館・保存館）

6ページをご覧ください。文化財・資料館・保存館からご報告申し上げます。

10月1日から保存館で「徳川家康から厚遇された三河の弓」というテーマで企画展示をしております。今月いっぱい10月31日まで開催しております。

10月10日、資料館で3年ぶりとなります「ふみの蔵コンサート」を開催いたしました。80名ほどの方にお越しいただきました。

10月22日から資料館で「野田城の戦い450年」というテーマで特別展を開催いたします。その翌日、山城サミットが岐阜県の恵那市で行われますので、こちらで長篠城、古宮城等の紹介をいたしてまいります。

それから27日に黄柳橋の現場確認をしてまいります。国の登録文化財になっております黄柳橋の改修工事を県の土木事務所の建設事務所が計画しています。このため文化庁から調査官が見えまして、どのような形で黄柳橋の改修工事を行うかというのを指導していただけるので、私どもも立会います。

11月2日から年内いっぱいまで保存館で「日本刀の素顔」というテーマで、企画展を開催いたします。

11月5日、JRのさわやかウォーキングが開催されます。例年、非常に多くの方が参加される行事です。今回は三河東郷駅から新城駅までウォーキングをされるのですが、その際に資料館にも立ち寄りをいただくというようなコースをJRで組んでいただきましたので、そちらに協力をいたします。

11月に入りますと、一宮西部小学校や新城小学校等から子供さんたちがお見えになり見学をしていただきます。最近になりまして、学校の見学が増えてきているように感じております。

文化財・資料館・保存館から以上でございます。

○生涯共育課（鳳来寺山自然科学博物館）

最後に博物館関係の行事・出来事です。7ページをご覧ください。

10月につきましては、1日に静岡大学の地学科の学生、先生38名にご来館いただきました。

5日には、豊川市赤塚山でのきのこ観察会に館長が講師として出席をしました。

6日には、NHKのにっぽん百低山のテレビ取材で館長が鳳来寺山を案内しました。放送日については未定だということです。

13日には、黄柳野高校グレートアースの28名、黄柳野高校の自然を勉強する生徒のグループのきのこの観察会に館長が講師として出席をしました。

14日には、東海自然学園の皆様34名が来館しました。

10月22日から23日にかけて、日本ジオパーク全国大会白山手取川大会が開催されます。東三河ジオパーク構想推進準備会の事務局として、オンラインにて出席をいたします。

同じく23日には、ジオツアー「中央構造線の露頭を巡る」として、市内の中央構造線の露頭を巡ります。

10月31日と11月2日に黄柳野高校の生徒1名様様のインターンシップの受入れを予定しております。

続いて、11月です。

11月は紅葉シーズンであり、鳳来寺山に訪れる方が多くなる時季でございますので、無休で開館をいたします。

6日には、東三河ジオパーク構想推進準備会主催のモニターツアー、「海から知る渥美半島親子向けバスツアー」を開催いたします。本日、チラシを配付させていただいておりますのでそちらをご覧ください。田原市博物館企画展、「海から広がる渥美半島」と連携したツアーとなります。渥美半島の美しい地形や、渥美半島の先端まで行き田原市博物館まで戻るという行程で計画をしております。

続いて11日ですが、新城小学校6年生の来館を予定しております。

13日から来年の3月31日まで、特別展「設楽層群の化石展」を開催いたします。

同じく13日には、ジオツアー「現在の川と大昔の川」を予定しております。

11月20日、23日には友の会の行事として秋のミュージアムフェスティバルを予定しています。昨年は、物販のみを行いました。今年度につきましては物販のほか、例年行っておりました輪投げなどのミニゲームも開催する予定でございます。

27日には、外学習会「望月街道の紅葉を楽しむ」の開催を予定しております。

博物館からは以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

それではただいまの10月、11月の行事・出来事について、皆さんからご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

○委員

補足ですが、2ページの学校教育課さんの10月の明日、東郷中学校が先陣を切って文化祭なんです。コロナ前ですと保護者も1日入れて文化祭をいろいろ展示を見てもらったり、ステージ発表を見てもらったりということなんです。やはりコロナ禍ということもあって、我が家も東郷中学校ですけども、東郷中学校は文化祭の一番華である合唱コンクールだけ保護者を入れてやるということで、1年生、2年生、3年生の順番で午後から各学年ごとに保護者を入れ替えて、1年生が終わったら次、2年生の保護者に入ってもらって、2年生が終わったら3年生の保護者に入ってもらってということで、合唱なので大きな声を出すわけですが、子供たちはマスクをして合唱の練習をしているということで、

感染対策をしながら子供たちなりに一所懸命活動をしてるようで、明日は私も3年生の合唱を見にいこうと思っております。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございました。

ほかにはいいですか。

○委員

ではお願いします。

学校教育課さんかと思えますけれども、教えてください。

9月になり2学期が始まったということで、出席の状況はどうかというところを伺いたいと思います。やはり、夏休みが終わり、またコロナのこともあり、お休みしなければならない子もいたかと思うのですが、そういうことで不登校になってしまったりだとか、そういう子供さんたち、気になる子供さんたちにも対応というものがどのようにされているのかなと思います。やはり市内を通ってみますと、いろいろなところで校外学習をやっていたりとか、今報告がありましたように社会見学や修学旅行とか文化祭、学習発表会といった今、一番学校の中でも充実した実りのときだと思うものですから、そのような経験というものを少しでも、これらの経験を通して学校というところに子供でも先生でも何か自分が認めてもらえる場所というものをきっちり持って、学校がその子、その子の居場所になるといいなと思っておりますので、その辺の対応とか状況はどうかというところを教えてください。

それから、もう一つはあすなろ教室がどのように行われているか、今回児童生徒の出席状況を聞きますが、子供さんたちも学校へは行かなくても、そこが充実したものであって、自分のペースで勉強を進められ、自分を認めてもらえる場所というもので進められているだろうなと思いますけど、何名ぐらいの方が在籍されて、どういう状況か、分かる範囲で結構ですので、教えていただければと思います。

お願いいたします。

○学校教育課長

それではお答えいたします。

コロナのまず状況ですが、2学期始まった頃はまだちょっと多めだったのですが、それがぐっと減って10月の頭ぐらいでは、ぐんと減ったのですが、今コロナ対応ダイヤルといって保護者から直接連絡が入る、コロナの関係の連絡が入るものを自分は持っているのですが、10月の頭はほとんど鳴らなかったのですが、ここにきてまたちょっとぶり返しているというか、増えてきました。連絡を受ける機会も増えてきました。どういうわけか、八名中学区なんです今、庭野小学校、八名小学校、八名中学校で案外コロナのお休みが増えてきています。千郷小学校はずっと慢性的にというか、子供の数が多いため、コロナのお休みはずっとあります。

出欠状況であります、コロナが原因で不登校気味になったという子は聞いておりません。ただ、慢性的に学校に足が遠のいているという子は、1学期からずっとおります。その子たちに対しては、ここにいる支援員が2名おりますので、その支援員が家庭訪問したり、学校の教員と連携を図ったり、そういうことで改善を図っております。

あすなろですが、現在12名が在籍をしております。12名が毎日出てくるわけではありませんが、その半分ぐらいは、入れ替わり立ち代わりではありますが、毎日来て勉強しているというような話を聞いております。あすなろの子たちは、学校に全く行けないかというところではなくて、授業後の時間帯であったり、週末であったりということで、学校にも顔を出しながらあすなろも利用していると聞いています。

先週、自分も様子を見に行ったのですが、新城中学校の子が2人新たに登録になったということで、その子たちも来ていて非常にいい顔つきで学習をしておりました。

先週は、あすなろの公開期間というのも設定がされまして、各学校からあすなろの様子を見にきてください、子供たちの勉強の様子を見にきてということで、公開もされております。

あすなろ、もともとは学校へ復帰を目標に始めた場所だとは思いますが、あそこが居どころのひとつ、何でもかんでも学校に復帰をさせるということではなくて、あそこで学ぶということも一つありという選択肢ができてきたのかな、東郷の子はあそこでめきめき勉強の力をつけて、高校進学、自分の夢に向かってあの場所で頑張って勉強しようという子もおります。そのような形で少しずつ、あすなろの形自体も変わってきているのかなということを感じています。

以上です。

○委員

ありがとうございました。

受け入れてもらえて、自分の居場所というものがきちりどの子にもあるといいなと思いますので、そういう場所があるということはとてもありがたいと思いますので、それで子どもたちがやりがいを持って通ってくださればありがたいと思います。

コロナでの不登校になる子はいなかったというのは、ありがたいかなと思いますし、そういったことがないようにすることはぜひともこれからもお願いしたいなと思います。

どうもいろいろと細かくありがとうございました。

以上です。

○職務代理者

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○委員

お願いします。

鳳来寺山自然科学博物館の方に教えていただきたいと思います。個人的な興味でお尋ねするんですけども、につぼん百低山に鳳来寺山が選ばれて、取材に応じられたということですけど、もともとにつぼん百低山というのは、どちらで選ばれていたのでしょうかということと、放送日が決まりましたらぜひ教えていただきたいと思います。

○生涯共育課（鳳来寺山自然科学博物館）

なぜ百低山に選ばれたかということですか。選考理由については、把握しておりません。NHKさんより、につぼん百低山で鳳来寺山を撮影をしますので案内する方をご紹介いただけないかというお問い合わせの中で、今回ご案内させていただいたところです。あくまでもNHKさんの判断で、選んでいただいたということですので。

放送日ですが、昨日、一般の方からも放送日の問い合わせがありました。NHKと私どもが直接やり取りしているのですが、放送日は未定という回答をいただいています。再度問合せさせていただき、放送日が決まりましたら、お知らせしたいと思います。

○委員

ありがとうございました。

○委員

今につぼん百低山に関連して、たまたま昨日NHKで昼に放送されていました。どうも1,500メートル以下の山で、日本全体で魅力のある山を紹介するということでしたので、新城で紹介されるなら、鳳来寺山しかないなと思っていました。日本を代表する魅力のある山として取り上げられるのは光栄なことですね。ガイド役が加藤館長さんと言われましたね。その番組はガイド役の方の役割がすごく大きい、そのガイド役の方によって魅力が出せるかどうかの番組だと感じたものですから、とても楽しみです。教育委員会には歴史の湯浅館長さん、自然の加藤館長さんと、全国に誇れる方が見えるのでありがたいことだなと感じた次第です。

以上です。

○委員

私も、ぜひ日にちをお伺いしたいのと、あとその下の予定、11月27日の望月街道というのはどこですか。

○生涯共育課（鳳来寺山自然科学博物館）

望月街道、板敷川の、出発としては榎原の駅に集まっていたきまして、そこから湯谷温泉方面へずっと飯田線と宇連川沿いの望月街道を歩きながら、紅葉をや自然を楽しむというものです。

○委員

先日、ふるさとウォークといって東陽小学校が親子で1年生から6年生まで縦割りをつくりまして、望月街道の散策が今年度、来年度は、医王寺、その次が鳳来寺という、3年おきに東陽小学校の中で回るんですけど、今年度がたまたま望月街道でそれと同じ場所かなと思ひまして、東陽小学校の子が回る場所もあるものですから、例えば江戸時代200年前に望月さんが55歳のときに街道をつくられましたとか、そういうクイズをしながら回るんですけど、またもし、同じ場所で違うことがあるかということに興味を持つんじゃないかなと思いました。

○職務代理者

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○教育長

特別巡業で、チケットの販売状況とかお分かりですかね。

○生涯共育課

少し、苦戦しております。

○教育長

苦戦ですか。

○生涯共育課

防災行政無線出したり、広報11月号に掲載しておりますので、これから動くことを期待しております。

○教育長

承知しました。

○職務代理人

あらしのよるといふのを皆さん、有名なお話ですけどご存じでしょうか。どんなふうに読まれるのかなと非常に興味があります。

ほかにはよろしかったでしょうか。

ないようですので、次に移ります。

日程第2 協議事項

○職務代理人

では、日程第2の協議事項は、人事異動方針について、学校教育課お願いします。

○学校教育課長

お願いいたします。

お手元に資料が行っていると思います。令和5年度新城市教職員定期人事異動方針、それから人事異動実施要領二つが行っていると思います。この人事異動方針、全ての教職員に周知をしていただいております。来年度に向けて、人事異動希望調査を現在行っております。この方針、要領にしたがって今後、来年度の人事を決めていきたいと思っております。

以上です。

○職務代理人

では、人事異動方針につきまして、皆さんからご意見をいただきたいと思うのですが。

安形委員、お願いします。

○委員

お願いします。

人事異動方針は今、全ての教職員に周知しているということですが、これは県の人事異動方針に準じてつくられているものですね。異動実施要領については、新城市独自のものという解釈でよろしいですか。

○学校教育課長

これも近隣市町村とほぼ同様な状況です。

○委員

確認しますが、実施要領に関わって質問していきたいのですがよろしいですか。

○職務代理人

はい、お願いします。

○委員

まず、今の新城独自というところで、1の管理職人事のところの①、できるだけ小中学校を経験した者。②の県教育委員会管外派遣、教育研究等での実績の重視、この①、②は、新城独自と言えるものかなと思うのですが、ここはどうですか。

○学校教育課長

これに関しては、ほかの基本方針であるとか、そういったものに関しては、ほぼ他と一緒になんです

が、この部分に関しては他市のものを取り寄せて比べたりはしていないので、自分はちょっとごめんなさい把握はしていません。

○教育長

できるだけ小中両方を経験した者となっていると思います。できるだけです、絶対ではないです。

○委員

そこでちょっとお伺いしたいのですが、小学校だけ、中学校だけという片免という言い方を通常するのですが、その片免の先生は市内に何人ぐらいお見えになるかということ、それから免許を取得奨励されていると思いますので、取得できた方、新たに取得できた方とか、取得中だとかそういう数字で実体がもし分かれば教えていただきたいのですが。

○学校教育課長

現在、教職員の中で小学校免許のみ、中学校免許のみという方が38名お見えになります。小学校免許のみの方が20名、中学校免許のみの方が18名です。今年度、持っていない免許を取得しようということで、現実に動いてくださっている方が3名お見えになります。この3名は、いずれも中学校免許のみをお持ちの方で、小学校免許を取得しようということで単位を取得している最中であります。

これまでどうだったのかということで、現在子供の前に立っている教職員の市内340名について調べてみました。そうしたら実に25%に当たる85名の方が教職になってから自分の持っていない校種の免許を取得されています。その内訳ですが、圧倒的に多いのは中学校の免許だけを持っていて小学校の免許を後から取ったという方で85名中のうちの68名が後から小免を取られました。80%です。

小学校の免許だけで、後から中学校の免許を取られたという方が10名です。そのほか、特別支援、昔は養護学校免許というような言い方をしていましたが、その方が14名です。合計が合わないのは、小学校の免許を持っていた人が中学校の特別支援を取ったとか、そういう形で2種類の免許を取られた方もお見えになります。

ということで、過去からずっと見てみると、かなりの方が自分の持っていない免許を取得されているということが分かりました。

以上です。

○委員

ありがとうございます。よく調べていただいて、正確な数字を提供していただきました。

自分が感じているところですが、このできるだけ小中学校を経験した者ということと、実績重視というところ、この二つは何年も前から入っている文言で、ずっと継続されてきているのですけれども、今85名の方がこれまでに取得されたということなので、大勢の先生方が取得できたんだということが確認ができました。

ただ、この表現を生かしておいていいのかどうかというところが自分はちょっと気になっていて、例えば、できるだけ小中学校を経験した者ということと、小中を経験したくてもなかなかできない先生が先ほどの数字だと38人ということですね。38人もみえるということは、1割以上の先生方がどちらかの免許しかない先生だということです。もし、数字で分かれば、38人中男性はどのぐらいみえるのかというのが分かりますか。

○学校教育課長

待ってくださいね、すぐに分かります。

9名男性です。

○委員

男性が少ないですね。頑張って取得されている方には男性が多い、というようにも解釈できますが、小中学校を経験した教師でないと、例えば管理職になれないという状況が、果たしていいのかどうか。例えば、38人はまず管理職になる可能性はほとんど薄いというように考えられるのですが、ではないと首を振ってみえますが、ここところがちょっと、どうなのかなど。性別で差をつけてはいけません、女性は管理職になりたがらないとか、いろいろな事情、考え方が違う方もおみえになるんですが、特に男性の場合で管理職をめざしたとしても、非常に可能性が薄いという実態がもしあるとするなら問題だと、ちょっと首を振られたので、すみません、そこが気になるのですが。

○学校教育課長

片方の免許だけしかお持ちではない方でも、非常に優秀な方がたくさんいます。

○委員

そうですね。

○学校教育課長

なので、その方がもう管理職の道はないということではありません。ただ、管理職になったときに実際あったのですが、小学校の経験しかない校長先生が初めて校長で中学校に来たということがあったんですね、自分がいた学校のとときに、非常に戸惑われていました。中学校なんか初めてなのに、何もわかれへんぞ、みたいなことを言われたのです。

やはり、発達段階、子供の発達を見たときに、小学校から中学校まで視野に入っていると、小学校から育ってきた子を中学校でどう伸ばすか、あるいは中学校に向けて小学校の間でどう子供を育てていったらいいのか、そんなような広い視野で子供たちを見ていただけるようになるので、これは本当にできたら、なんです。なれないということではなくて、そういうことで小中両方経験されている方がいるといいかなということなんです。

今回調べてみて、本当に気づいたのは今現在、19校の校長先生のお名前がかなりあるのです。あ、この校長先生も後で小学校免許を取ったんだとか、そういう先生方が随分お見えになって、そうやって両校の経験をされてきているのだなということは新ためて感じました。

○委員

分かりました。ありがとうございます

もう一つ管理職関係で言いますと、①と②で気になっていたことを申し上げるのですが、実績について重視するのは当然だと思いますが、例えば県教育委員会、管外派遣、教育研究等と並べられていますが、この中で本人の意思、あるいは努力で可能な実績は教育研究だけです。県教育委員会、管外派遣については、この実績は教育委員会が定めることで、当然優秀な先生を選ばれるのですが、教育委員会で決めた人事でその先生の実績となるわけです。本人の意思や努力とは必ずしもいえない部分での実績ということになりますので、果たしてこのままでいいのかというところが私は気になっているわけです。

あわせて、教職員人事の同じ関連です。⑤ですね、新規採用教諭については、原則として初任校勤務3、4年をめどに、異校種における職務経験を持てるように異動を配慮する。

新任で入ってきたときに、3年で小学校に入ったら中学校に異動する、中学校で入れば小学校へ異

動する、そういうことですね。ということは、最初から両免を持っているという前提で考えているわけですので、そうすると新城では、両方の免許を持っていないと歓迎されませんよというように受け止められますよね。先ほどの両免のことと合わせて、何か教員を差別しているような印象を受けるのですが、その辺はいかがでしょうか。

○学校教育課長

これも先ほどの続きで、言葉を変えて言うと、実は小学校のみ経験の先生は、割合、自分たちが一所懸命育てたのに、中学校になったらちょっと伸び悩んでいるなということがあったり、あるいは中学校ばかりの先生は小学校でもうちょっとこれだけやってくればいいのにとということで、割合自分の校種ではない方の学校のことをもうちょっと何とかしてくれよという批判目線になりがちなんです。だから、やはり望ましいのは両方を経験するというのが望ましいということですので、これは歓迎していないとかそういうことではありません。できるだけ若いうちにそうやって両方の校種を見て、小学校の子供たちの伸び方、中学校の伸び方、先生の接し方を見ていただいて、義務教育全般を長い目で見ながら、その後の教育活動に生かしてもらえるといいなという、そういう願いです。

実は、3年実績を積みば小学校の先生が中学校の免許を取る、あるいは中学校免許しかない先生が小学校の免許を取るといったときに単位数がうんと少なくなって、免許の取得がしやすくなります。なので、3年たってから取得に動いていただくのがいいかなというように思うのですが、3年たてばそうやって免許が取れる状況が整うので、できるだけ若いうちにといい願いが込められています。

○委員

そのように言うのは簡単なのですが、単位を取得するというのは大変な努力が必要ですよね。ただでさえ多忙化で、まして新任で入られた先生方は毎日がもう必死ですよ。そういう先生方が早くにその単位を取得できるなんて余裕は全くないと思います。多忙な先生、それから優秀な先生に限ってその学校の重責を担うような校務分掌を任せられます。これは当然だと思います。私自身の経験からも、やはり優秀な先生に難しい学年、クラスを担当してもらったり、校務分掌でも重要なところをやってもらったりというようになりがちなんです。その先生が両免を持っていないことを自分は承知してお願いしたこともあるんですね。本当に心苦しいです。一方で両免を取れるように頑張りんよと言いながら、一番大変なところを任せてしまう。そういう経験があるものですから、現場の先生が単位を取得できるようにサポートできることはないのかと思うのです。できることでしたら、先生個人に任せるだけでなく、教育委員会で単位取得を支援できないものかと思うのです。このままの要領で行くのであれば、私の経験からこのことを申し上げておきたかったわけです。

急な意見で難しいかもしれませんが、他の委員さんはどんなふうに思われているか、もし意見があればお聞きしたいのですが。

○職務代理者

安形委員のご意見に対しまして、何かほかの委員さん、意見、ご質問でも結構ですが、いかがでしょうか。お願いします。

○委員

安形委員さんのおっしゃったこと、本当にそうだと思います。

初任の先生方というのは、もちろん初任の1年間というのは、研修、研修で授業がなかなか補助し

てもらわないとできない状況で、外に出て単位を取るというのは難しいと思います。

3、4年で異動というのは普通に考えてあり得ることだと思うのですが、そこまでに免許を取るというのは結構厳しいかなとそういう感想を持ちます。

○職務代理者

ほかにいかがでしょうか。

○学校教育課長

補足をさせていただいてもいいですか。

○職務代理者

どうぞ、お願いします。

○学校教育課長

本年度の異動希望調査の欄に初めて、片方の免許の方はもう一方の免許を取りたいと思っていますかという欄を設けました。あわせて、校長先生方には、先ほど安形委員のお話が本当によく分かるんです。やはりできる人のところには仕事を任せたくってしまうので、なのでその異動希望調査の中で、きちんと私は、もう一方の免許を取りたいという意思表示がある人には、ぜひ来年度の校内校務分掌もちょっと軽めにとりような形で、配慮してあげてくださいというお願いは併せてさせていただいております。また、来年度に入るところできちんとお願いをしていきたいと思います。

以上です。

○委員

教職という立場にはないので、例えば先生たちの勤務状況というのは、妹が先生だったので帰ってきたときも遅く、本当に10時過ぎで資料をつくりながら、ご飯を食べながらとか、そういう様子でしか見たことがないですけど、今、保護者の、例えば、同級生のお母さんと話したりすると、今の先生の言われた小学校を経験していると中学校でこうやって次3年間進むんだ、中学校に行ったときに、実は小学校でもうちょっとここまで仕上げてくれるとという、その関係があるというのはすごく分かるんですけど、実際に保護者で例えばそれこそ仲間で話すと、あの先生は、中学校に見えたからクラスづくりは上手だけど、一人一人見てくれないであったり、逆に中学校の先生、あの先生は小学校に見えたので小さいことはすごく毎日言われるんだけど、先のことを言ってくれないと言われるんです。だから、両方の経験も分かるんですけど、意外に保護者から見えている先生像というのは、当然子供の言うことや、子供の経験だとか成長は発達段階に関わっていますけど、両方の先生が本当に保護者から見たときに、いい先生だなと思っているのかなというのは、今聞きながら小学校だけ取った先生でもすごくベテランで本当に一人一人自分の子供のように見てくれる方もいて、いいなと思いますし、中学校で確かに文化祭で優勝に持っていってくれる先生もいいと思いますし、両方を兼ね備えた先生イコール本当に最終的に管理職に就いて、言い管理職になるかということ、そういうことではないのかなという感想を持ちました。

○職務代理者

ありがとうございます。

○委員

私も引き続き、私も教員免許を持っていませんのであれなんですけど、うちの今中学3年生の息子の担任の先生が昨年持ち上がりなんですけど、ずっともう7、8年になられるのかな教員になられて、

小学校しか経験されていなかった先生で、中学校2年生のとき初めて中学校にみえたということで、ちょっと保護者たちも心配だったですね、コロナ禍というのもあった。実際に年度が明けてすぐの授業参観を見に行ったときに、やはりずっと小学生を相手にしていたものですから、板書をするときも漢字が出てこない、漢字ってどんな漢字だっけと、生徒に教えてもらいながら板書をしていたり、ほんとに大丈夫かこの先生なんて思っていたりしたんですけども、息子が3年生に持ち上がったときに、またこれで受検のシステムが今の中3の子たちから大きく変わるじゃないですか。大丈夫かなと思っていたのですけれども、本人ものすごいご努力と周りの先生方のサポートもすごくあったりとか、本当に今すごく頼りになる担任の先生で、学校をお休みしたときなんかもう、夜9時近くに学校から電話をかけてきてくださって、今日お休みしたけど大丈夫でしたかなんていう電話をくださったりしていたので、すごくご自身努力をされて、周りのサポート含めてやっていらっしやっただろうなというのを実際に小学校しか経験していない先生が中学校に上がってこられる、実際に受け持ちをしてもらった身としては、かなりの努力、周りのサポートがないと安形先生が言われたように大変なんだろうなというのは、体制がないと、恵まれていないと厳しいんだろうなというのは、すごく保護者として感じました。

○委員

お願いします。

それぞれ、先生も人なので、人としていろいろな方がお見えになるかと思えますけれど、この要綱の中に次の免許を取るとかというそういう機会のときに、学校側では校務分掌やいろいろな配慮というのがあるということで、できるだけ支援するよということがあるかと思うのですが、この中に文章として一つそういう場合にはというような記載があったりすると、確実にその1年間はそれにある程度力が注げるみたいなものになるといいのではないかと、みたいな提案ではないかというようにも今、感じ取られたのだけど、そのように入れて教育委員会としてここに書いてあるし、こういうものが取れるんだから若いうちに経験をして、ちゃんと両免を取るような体制を整えていきましょう。推奨しますというようなものがあれといいのではないのかなと思いました。そのような検討をされることを私はぜひ進めていただけるといいなと思っております。

○委員

ありがとうございます。いろいろなご意見をいただきました。

両免の必要性というのは私も十分、分かっていますし、その重要性、それから人事面での両免を持っているか、持っていないかで人事が本当に大変になるということも伺っています。やはり両方経験しているいろいろな面で視野が広がる、それはもう間違いないです。自分は、30後半ぐらいで初めて中学校へ赴任したんですけども、やはり最初は苦労しましたね。でもその中学校を経験したことで初めて中学校の良さややりがいも分かりましたし、教科指導を系統的にみるようにもなりました。やはり行ってみないと、体験してみないと分からない。中学校から小学校に行く場合も同様で、やはり両方経験することは重要だということは十分認識しております。

ただ、片免の先生方に両免許取れるように支援するのは教育委員会の役割ではないかと思しますので、そこを改善していただければと思います。私は人事を担当したことがないので分かりませんが、人事異動を担当される先生は本当に大変だと思います。いろんな条件が全ての先生に絡んできますし、教科の配置や年齢、性別などいろいろなことをクリアしながら人を配置する。本当に優

秀な頭脳の方でないと、人事はできないだろうなと思いますが、それでも一人一人の先生方が希望を持って、元気に仕事に励めるような配慮をぜひお願いしたいと思っています。

○職務代理者

ありがとうございます。

短い時間の中で非常にいい意見が出されたかと思います。

まとめてみたいのですけれども、既にこのできるだけ小中学校を経験、できるだけというその言葉とか、それも嫌な言い方だなというように思ったりしたのですけれども、やはりこういう言葉というのは、本当ならば両方の経験をしたい、これは誰でも願うことだと思うのですが、どうも話を聞いてみると、優秀な先生ほど重要な自分の時間がなくなる、本当によく分かります。

先ほど、中嶋先生から、それではそういう希望を取って、そういう方にはなるべく勉強ができるような環境を差し上げたいというような先ほどお話がありましたけれども、やはりそれは理想論であって、たとえそれをお話しをしても本当に現実的に実行されるかどうかというのはちょっと不安もありますので、先ほど夏目委員から提案がありましたように、それを必ずここに1行加えていただくとか、あとはこの1、2の言い方ですね、できるだけというのと、あと2の安形委員からもうちょっとほかの言い方はないかという提案がありましたけれども、全くそのとおりでと思いますので、その辺りをもう一度ご協議いただければありがたいと思います。これを教育委員としての意見とまとめましてお願いしたいと思いますが、これでいかがでしょうか。

よろしくをお願いします。

教育長からお願いします。

○教育長

ご審議ありがとうございます。いろいろな問題点を含んでいると思います。

自分の立場から若干話をさせていただきます。

私も人事担当を数年やらせていただきました。人事異動ができない、つまり3月30日の新聞に新城の人が載らない、そういうことが起こりうる状況になっているということだけご理解いただければと思います。

新城はできる限りのサポート体制は取らせていただきたいと思います。でも、小学校から中学校免許を取るといのはなかなか大変、中学校から小学校免許のほうが比較的取りやすいということは聞いております。

あと、私たちができることは、長野県、中山間地域が多い、ダブル免許、つまり中学校で数学と理科を両方持っている。そういうことであれば人事異動がしやすくなります。例えば、私は英語だけですけれども、英語と音楽を持っている、そうすると活用の幅が広がるということです。ダブル免許を取得ということのをこれらかやっついていかないと、人口減少の中で非常に難しい問題が生じてくる。

あと私たちができることは、新規採用者に対して面接をするのですけれども、ここで新城というところは学校数も少ない、職員数も少ないから、あなたは中学校免許だけだけれども、やはり数年のうちに小学校免許も取っていただきたいと思います、もう就職する前からお願いをするようなこともさせていただいております。もう一つは、割愛とって、東三、西三、あるいはほかのところから新城を希望したい、あるいは結婚で来られる方、その方たちにも必ず両免を取っていただくことを入る前から伝えております。そうしていかないと、子供の前に立つ教師がいなくなる、そういうことが起こってくる

ということです。逆に言うと、それは問題がある言い方かもしれないけれども、新城で片免の方には、ひょっとしたら、もし小学校教員を続けたいならば、ほかの市町に割愛を希望してくださいと言わざるを得ないような状況に陥ってることがあり得るということですね。だから、免許制度を根本的に考えていかないといけないところに我々が追いやられている状況もありますので、その辺りもご理解いただけたらありがたいと思います。非常に難しい問題です。

○職務代理者

ありがとうございました。この件につきましては、この辺でよろしいでしょうか。

では、よろしく願いいたします。

日程第3 その他

では、日程第3に移りたいと思います。

そのほかで、冬の特別展について、生涯共育課お願いします。

○生涯共育課（鳳来寺山自然科学博物館）

本日、チラシをお配りさせていただきましたので、ご覧ください。

行事・出来事でもご案内させていただきましたが、博物館では12月13日から来年の3月31日までの間、「冬の特別展 設楽層群の化石展」を開催いたします。この特別展では、約1,700万年前、この地方一帯が海であった時代に形成されました堆積物の中に見られる貝類や甲殻類、魚類等の化石を紹介していきます。展示する標本ですが、故人になられましたが、藤城豊先生、林唯一先生が当館の学術員として長年にわたりこの地域の調査研究の中で収集いたしました未公開の化石標本を展示いたします。ご都合つきましたら、ぜひご来場ください。

以上でございます。

○職務代理者

何か皆さんからご質問等ございませんか。

化石展のお話だったのですが、こちらの大手門通りの街路樹の切り株に生えている、これは先日私、質問させていただいたことなんです。その日のうちにすぐ採取していただきまして、さらに今日このように書いてありましたので非常にありがたいなと思ったのですが、ありがとうございました。

腐食により判別がつかませんという内容で判定できず。また、少し季節が変われば新しいキノコも生えてくると思いますので、この機会に私もちょっと勉強してみたいと思います。ありがとうございました。

○委員

一つよろしいでしょうか。

これで11月が見えてまいりまして、小学生は私服なのでいいと思うのですが、特に中学生の服装についてですけれども、2年前と昨年と話がいろいろと時季によっても出てきたことですが、うちなんかは男の子なものですから、半そで短パンで行きなさいと、全然いいですけれども、特に女子生徒は中学生になるとホルモンのバランスやなんかで急に寒く感じたりとか、腹痛を訴えてしまう時期もあつたりするものですから、もちろんしかるべき場所でしかるべき格好で授業を受けたり、登校したりというのはもちろんのことだと思うのですが、例えば千郷と作手だと、今朝なんか急に冷え込みましたが、気温差がすごくて1桁に今朝もなっていたりしたので、ちょっと各学校で中学生

の特に登下校時の服装について、例えばこの時期にならないとウインドブレーカーは使用してはいけませんとか、この時期にならないと温かい格好をしてはいけませんという縛りはなくしてあげたほうが、コロナ禍もありますし体調管理を自己責任でさせていかないと、やはり3年生は受験シーズンに入りますし、学校行事も多いので制服は冬服に今変わっているタイミングなので、脱ぎ着できる格好というのを各学校でもう少し緩くしてあげたほうがいいのではないかという声がいろいろな中学生の保護者の方から上がっているのです、ご検討いただけたらと思います。

○教育長

学校教育課長、対応をよろしくお願いします。

○学校教育課長

はい、分かりました。

○職務代理者

今本当に、春夏秋冬が、シーズンの区切りが分かりづらくなっていますので、全くそのとおりだと思います。

よろしくお願いします。

ほかはないようでしたらこれで閉会とさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

では、次回の定例会議は、11月17日木曜日を予定しております。

それでは、これをもちまして令和4年10月定例教育委員会会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

閉会 午後3時47分